

わらべうた講座

心をはぐぐむわらべうた

講師：落合 美知子氏（児童文学研究者）

当初対面での講演を予定しておりましたが、県内の新型コロナウイルス感染者増加を受け、急遽オンラインでの公開となりました。以下、オンラインで公開した講座の内容です。

■はじめに

2020年5月、新型コロナウイルス専門家会議から、「新しい生活様式」として、身体的距離の確保、マスクの着用、「3密」の回避などの感染予防対策が示されました。

こうした環境の中で、乳幼児の心をはぐぐむには、どのような工夫や方法が必要でしょうか？乳幼児が求めていること、成長に必要なことを見直し、わらべうたの果たす役割を再考し、子どもと本をつなぐ実践に役立てていただく講座です。

■乳幼児へのまなざし

赤ちゃんは何を求めているのでしょうか？

(1) 肉声（生の声）

赤ちゃんはことばを獲得するために、声の応答を求めています。絵本『どうぶつのおかあさん』（小森厚ぶん、藪内正幸え、福音館書店）を見ると、動物も赤ちゃんに対しやさしいまなざしを持っていることが分かります。人間が他の動物と違うのはことばを獲得してきたことです。ことばで応答し、コミュニケーションをとることで、人の心に触れて人間になってきたのです。

赤ちゃんの大好きな「ことば」に、子守唄があります。

♪この子の可愛さかぎりなしを歌う。

赤ちゃんは歌詞の意味は分からなくても、声の中に愛情や気持ちを汲み取る感性を持っています。歌っているうちに、歌っている側

も赤ちゃんを可愛く思うようになります。

(2) 人との密なふれあい

動物は夜泣きをしません、人間の赤ちゃんは夜泣きをします。これも親子の関わりを密にしたいからでしょう。

(3) 抱っこ

赤ちゃんは抱っこしてもらうことにより、自分の居場所があると感じられます。5000年前の縄文時代にも抱っこの土偶が見られるように、長い間、大事にされてきました。

(4) あそび

あそびは命令されて行うものではなく、主体的・能動的に行うものです。赤ちゃんは、あそびながら成長していきます。

以上のように、赤ちゃんが求めていることは、人間にとってなくてはならないことです。わらべうたは、この赤ちゃんが求めていることすべてに応えることができます。

■乳幼児とわらべうた

わらべうたは、文字の文化へ移行する前の声の文化です。伝承される中でシンプルになり、人と人が関わりあってあそんできた「あそびうた」でもあります。乳幼児にとってわらべうたは、どのような魅力があるのか、以下のように実践してみましょう。

(1) コミュニケーション・応答

♪いないいないばあ

絵本『でてこいでてこい』

（はやしあきこさく、福音館書店）と共通性

♪あんたがたどこさ

(2) 能動的な関わり

♪ちょちちょちあわわ

(3) あそび（想像、創造性）

♪かれっこやいて

(4) 身体性

♪ねずみねずみ（くすぐり）

♪おやゆびねむれ

(5) 季節・行事

♪おせよおせよ ♪ななくさなずな

■わらべうたの特質

マジック・アンド・ミュージック

(1) ことば

わらべうたで、母語を耳にすることができます。歌詞（詩）は文学の入り口です。

(2) 音楽

日本の伝統的な音階である五音階に触れられます。また、音域が短いため、すぐにまねすることができます。

(3) あそび

あそびは能動的です。ことばの獲得と同じです。新しい生活様式によって、赤ちゃんは人とのやり取りや関わりが薄くなり、ことばが遅れがちです。また、マスクをしていて表情がわからず感情が育たない、口元が見えないため本来であれば真似をすることで獲得する咀嚼が出来ないなどの弊害もみられます。

■乳幼児おはなし会

図書館の乳幼児おはなし会は、ことば獲得の過程にある子どもと保護者が対象で、本と子どもをつなぐものです。

おはなし会の入口（導入）や出口（終わり）は繰り返し同じうたや絵本等で行うとよいでしょう。おはなし会の型が同じだと、参加者は安心して参加することができます。また繰り返すことで覚えて、家でもうたうようになります。わらべうたを選ぶ際には、『乳幼児おはなし会とわらべうた』（落合美知子著、児童図書館研究会）を参照してください。

〈おはなし会の型、実践の一例〉

導入（子守唄、わらべうた、絵本）

絵本『でてこいでてこい』

♪ととけっこう ♪おちやをのみに

親子の触れ合い遊び

（抱っこ）

♪このここのこ

（顔遊び）

♪ここはとうちゃん

（くすぐり）

♪いちりにりさんり

（身体遊び）

♪うさぎうさぎ ♪うまはとしとし

（布遊び）

♪にぎりぱっちり ♪たんぽぽたんぽぽ

終わり（絵本、わらべうた）

絵本『ひよこさん』

（征矢清 さく、林明子 え、福音館書店）

♪さよならあんころもち

■未来を創る子どもの環境

乳幼児の成長には人と人の密な関わりが必要です。声を聴いて、目を見て、表情を感じることで心は育ちます。人の表情が見えない状況にある今だからこそ、家庭でわらべうたや絵本の読み聞かせを取り入れてみてはいかがでしょうか。

子どもたちの今は人類の未来です。今、子どもたちが感情を持たなくなってしまうたら、将来人間同士が感情を持たない社会になってしまいます。子どもが人間らしくなれる環境をつくるため、身近な方が絵本の読み聞かせやわらべうたで関わって、子どもたちへのまなざしを深めていただきたいと願っています。

落合先生には参加者の顔が見えない中で、わらべうたの実演をいくつも交えながら御講演いただきました。新しい生活様式を受け、直接のふれあいが少なくなることで、生まれたばかりの赤ちゃんの表情がなくなってしまうなど、心と体の発達に深刻な影響が出ているというお話が特に印象的でした。このような状況にあるからこそ、わらべうたをはじめとする「ふれあい」が乳幼児にとって何より大切だと実感できる講演となりました。



（記録：埼玉県立久喜図書館 森 奈穂子）

こどもの本のひろば

よもう！つくろう！

こどもの本のひろば

今回の「こどもの本のひろば」では、工作「ばたばた羽ばたくチョウ」の作り方の動画を、オンラインで配信しました。動画は12月16日から1月11日までの27日間「図書館と県民のつどい埼玉 2020」公式WEBサイトにて公開しました。おすすめ本の展示は中止となりました。

【工作会】（動画配信のみ）

工作は、浦和子どもの本連絡会の中村涼子さんに御協力いただき、「ばたばた羽ばたくチョウ」（出典：『あしあと No.6 2011～2018 年度活動記録誌』付録「科学あそびと工作」）の作り方を、動画撮影をしました。

材料は太さの違う2本のストローと、色画用紙、両面テープです。また、ハサミ、ホッチキスを使います。

下準備として、チョウの羽を色画用紙から型を取って、切り出します。次に、太いストローを15cmに切り、片側に10cmの切り込みを入れた後、細い方を太い方の中に入れます。細いストローには片側の先端に1cmの切り込みをいれておきます。

最後に、ストローとチョウの羽をホッチキスでとめて完成です。



動画は約15分。視聴者が見やすいように、紙を切ったり、ホッチキスで止めたり、細かい作業は、手元が大きく映るように上からカメラを近づけて撮影しました。

特にチョウの羽とストローをとめる工程が、子どもには難しいように思いますが、動画ではわかりやすく説明されています。また、聞き取りやすいように、中村さんにはゆっくり、はっきりと発音していただきました。



左上：『あしあと No.6 2011～2018 年度活動記録誌』（浦和子どもの本連絡会編・発行2020）

左下：工作の動画の様子

右：「ばたばた羽ばたくチョウ」

【おわりに】

感染症拡大の影響で、工作の動画配信のみとなり、おすすめの本の紹介や、おはなし会をすることができなかったのが残念です。

しかしながら、配信動画の作成は自宅で手軽に工作を楽しむきっかけになったと思います。来年度も工夫を凝らして、「こどもの本のひろば」を魅力ある企画にしていきたいと思っています。

（記録：埼玉県立久喜図書館 太田 ありか）